

幕末明治の写真師列伝 第百十九回 宮下欽 その三十七

「四月十一日 晴天

一、午前第八時半過松蔵・宮下兩人ニ而上野山内桜華景色写真に
行、午後二時頃帰ル、四ツ立判三枚・双眼五枚出来ス、○同第四時頃
宮下共慣義塾へ行、啓次郎殿入学之義、弥（ルビ：いよいよ）明十二
日方致し度頼、夫（ルビ：それ）方洋書啓次郎用料之洋書二冊鍋町迄
行調、六時過帰ル、○同第二時頃松崎氏来ル、

（内田九一書簡一通挿入）

横山様 内田拝上

御衆中

書付御受

毎々御面倒恐入申候、塗盆三枚引替差上申候、御落手可被下候、此
段御請申上候、

一、博覧会写真直（註：値の誤字）段書、明朝差出可申積ニ御座
候間、

御印形御持参ニ而、今晚九字ニ下拙宅へ、乍御苦勞御出浮被
下奉申上候、

一、博覧会御註文惣高も弥千部ニ取極り申候、
細事ハ今晚拝眉之上可奉申上候、右御請旁（ルビ：かたがた）

申上度、如此御座候、以上、

辰一月廿五日

尚以、今晚御入之節、四ツ切之体をニツ程御持参被

下候ハ、忝（ルビ：かたじけなく）存候、

此段拜畏申上候、以上、

（外務省からの書簡一通挿入）

先刻申付候日光山写真者[先]一通りニ而宜候間、此
段申入候也、

四月廿九日

〆

外務省庶務

横山松三郎方へ

ここで重要な情報が出て来る。それは4月10日、4月11日の記述
で、宮下欽が松蔵と一緒に上野山内へ行き、桜の花の風景写真を撮り
に行っているという事実である。この風景写真がどういう写真である
かは不明ではあるが、現在、我々が撮影者不明とした上野の桜の花の
風景写真がそれという可能性は高い。このことは今後も留意するべき
事であろう。

共慣義塾は、明治維新の後、盛岡藩最後の藩主、南部利恭（ルビ：
としゆき）が、藩士子弟の中から傑出した人物を世に送り、藩勢を立
てなおそうと創立した英学塾で、啓次郎がこの共慣義塾に入学してい
たのも興味深い。共慣義塾は湯島三組町にあった。

さらにここで内田九一の書簡が一通挿入されており、これも内田九
一研究の一事実として興味深い。

「四月十二日

一、午前第八時束脩金二円持参、啓次郎殿一同ニ宮下共慣義塾行、
同時過ニ宮下帰り来ル、啓次郎殿正午頃帰ル、○午前第十一時半過吉
五郎来ル、同人頼ニ付四ツ判焼わく（註：杵）五ツ、羅紗裏切五枚、

鉄羽五枚、ばね数二拾借（貸）遣いス、尤両三日と申約束なり、○午
後第二時前宮下、石川へ行、[大判]硝子三枚調、夫方浅沼や（屋）へ
行、[大]台紙註文シ、内田氏へ行、四ツ立張込之ブック二冊相頼、夫
方島辺写真之場所見分シ梅若塚迄行、同第七時半頃帰ル、○塩坪氏
より午後第七時頃使来り候ニ付、兼而借用之西洋出来之写真二枚返
ス、○吉五郎午後七時半頃来り、今夜方当方ニ引越ざり之約束なり、
○善太郎手伝来り、終日例之通細工ス、○大蔵省（軍医療）六等出
仕吉田氏来り、今般呉服橋内へ大蔵寮口省ニ而見事之家建築有之、右
同省ニ手寄有之候間、写真致し候ハ、申込遣し可申旨、沙汰被下候、
○玉松方使来り、宮下ニ一寸来り呉候旨頼有之、

「四月十三日 晴

一、午前第六時過松蔵、宮下・吉五郎を連、向島江桜華景色写ニ
行、午後第五時過帰ル、四ツ立判三枚、八ツ立判二枚、双眼三枚種板
出来ス、○吉五郎方堀之和田氏ニ用事有之旨ニ而[返り]途中方同氏
方へ行、○午後第二時頃織田氏来ル、無程帰ル、○善太郎来り、手伝
之者召連来り、普請向例之通、○午後第六時前笹森氏来ル、無[程]帰
ル、○午前第十二時半堤氏之弟来ル、両三日内ニ帰国可致間、京都表
へ御用之義有之候ハ、何なりとも被仰下度旨申開候ニ付、松三郎他
出致し留主之義ニ付、いつれ（註：いづれ）当方方罷出有無可申上旨
相答、同時過帰ル、

「四月十四日 薄照

一、午前第十時頃西田耕蔵殿来ル、今般当分之内、木挽町三町海陸
運送方桜屋三右衛門ニ在宿候旨被仰聞、菓子・茶出ス、同時過箱館住
吉や（屋）和兵へ（衛）殿、外ニ一人同道ニ而来ル、菓子・茶出ス、
右之人々同第十二時頃帰ル、○斎藤氏同第十二時前来ル、羊羹一本到
来ス、且楼上へ菓子一袋到来ス、午後第二時前帰ル、右同人唯今迄同
宿之人病氣ニ付、軽快次第参るべき旨頼有之、○同第二時頃宮下兵学
寮へ行、兼而機械之写真註文之分、二拾九種五枚ツ、合百四拾五枚
持参シ、左之通之書面差出ス、尤印判不致、

【陸軍兵学寮宛受領書書写】

記

一、金四拾五円三拾一銭 大砲小銃等之写真

二厘五毛 八ツ立判[百] 四拾五枚、

但一枚ニ付代金五拾一

銭二厘五毛ツ、

右之通代金御払被下ケ被成下、正奉請取候、以上、

年月

横山松三郎

兵学寮御役人御中

夫方租税寮へ行、過日註文ニ相成候富岡景色三部差出し候所、同寮
之御役人衆、大蔵省江同道ニ而行、左之通之印書差出シ、即時御下ケ
金ニ相成、

【大蔵省租税寮宛受領書書写】

記

（つづく）

（※「方」は平仮名の「よ」と「り」の合字）

（森重和雄）